世界を踊るトゥシューズ―私とバレエ

目次

激動の世界で踊り続ける　4

第一章　ボリショイへの旅立ち　9

第二章　激動のソ連、バレエの伝統と出会い　33

第三章　ヨーロッパ・バレエ武者修行　57

第四章　いざアメリカへ　77

第五章　9・11とボストン・バレエ　101

第六章　ベルリンという文化　129

第七章　マラーホフという天才　161

第八章　コラボレーションの喜び　183

第九章　世界のバレエ、日本のバレエ　201

第十章　マラーホフが語る日本とバレエ　219

空飛ぶバレリーナ　倉澤治雄　226

針山愛美【略歴】　234

激動の世界で踊り続ける

「もう、明日はないかもしれない」と思ったのは、一度や二度ではありません。十六歳、たった一人でボリショイバレエ学校に留学したとき、崩壊直後のソビエト連邦は混乱のるつぼでした。目の前を戦車が行きかい、ガス銃で撃たれ、マフィアに襲われそうになったことは数知れません。零下二十度の極寒の中、食べるものもわずかで、たった一つのパンを買うのに、一時間並んでも手に入らない日さえありました。

私が留学したボリショイバレエ学校の寮は、シャワーのお湯も出ず、何枚重ね着をしても、寒さから逃れることはできず、眠れぬ日々を過ごしました。そんななか、バレエだけが私の救いでした。バレエは私の生きがいであり、夢であり、教師であり、友であり続けました。凍りつくようなバーに手をかけ、バレエのレッスンに励みました。ロシア人との体格の違いを乗り越え、日本人としての魅力を磨き続けようと必死で練習に励みました。

危険を承知で公演を見にボリショイ劇場やダンチェンコ劇場に通いました。政治的・社会的な混乱のただ中でも、クラシックバレエの伝統は劇場の中で生き続け、最高峰のバレエダンサーの公演に心を震わせました。

ロシアを離れ、初めてヨーロッパに出たときは、すべてが輝いて見えました。パリ国際バレエコンクール表彰式後のパーティでは、二十世紀バレエの最高峰、マイヤ・プリセツカヤから、「踊って、踊って、踊り続けなさい」と、声をかけていただきました。バレエの神髄に目を開かされた思いです。

ジャクソン国際バレエコンクールへの出場をきっかけに、ヨーロッパからアメリカに渡りました。アメリカのバレエカンパニーではさまざまな経験をしました。しかしボストン・バレエに入団した二〇〇一年、アメリカ同時多発テロが発生、世界は「波乱の時代」に突入しました。アメリカはいまも「9・11」の影を引きずっています。

二〇〇四年にベルリン国立バレエ団に入団した後も、私のバレエのレパートリーは広がりました。芸術監督ウラジーミル・マラーホフが率いるベルリン国立バレエ団は、三つのバレエ団が統合して創設され、私は第一期生となりました。

国際都市ベルリンには世界中から若いアーティストが集まり、さまざまなコラボレーションやイベントが展開されます。ダンサー、音楽家、画家、コンピュータ・サイエンティストなど、あらゆるジャンルのコラボレーションが毎日繰り広げられます。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会やオペラには、どれほど通ったことでしょう。小澤征爾、クラウディオ・アバド、サイモン・ラトル、ダニエル・バレンボイム、キリル・ペトレン

コなど、世紀のマエストロの演奏を間近で聞くことができました。

すべてが私の体と心に刻まれ、バレエを通して身体表現に現われてきます。

振り返ると旧ソ連圏内では極東からキエフ、ドネツク、ムルマンスクまで、ヨーロッパはドイツ、フランス、スペインからクロアチア、スロバキアまで、ほとんどの国・地域をかけめぐりました。アメリカ大陸は東海岸のニューヨーク、ボストン、クリーブランドから西海岸のサンノゼまで、何度もバスや飛行機で横断しました。

中国、台湾、タイなどでもバレエは徐々に広がり始めています。近い将来、アジアの国々からも偉大なダンサーたちが輩出されるでしょう。キューバでの経験は衝撃的でした。独自の音楽、内面からあふれ出る身体表現、トゥシューズや衣装はなくても、魂からほとばしる踊りへの情熱に心を打たれました。激動の世界で踊り続けて、たくさんの出会いがありました。この本はいわば私が出会った人たちとのコラボレーションの結晶です。

そして日本。バレエには「踊る喜び」と「見る喜び」があります。子どもたちだけでなく、ぜひ幅広い年代の方々にバレエを踊る楽しみを知ってほしい、そしてバレエを見る機会をもっと増やしてほしいと思います。私もプリセツカヤの言葉通り、これからも踊って、踊って、踊り続けます。

序文の場を借りて心から謝辞を捧げたいと思います。

まずウラジーミル・マラーホフさん。クラシックバレエの天才と呼ばれ、ベルリン国立バレエ団の芸術監督として活躍、十年にわたるバレエ団での指導を通して、マラーホフさんから多くのことを学びました。自然へのあこがれ、舞台への集中力、踊りの厳しさ、創造力など、バレエの神髄に触れることができました。この本の中に、そして帯にも登場いただきました。

イリーナ・コルパコワ先生からは娘のようにかわいがってもらいました。ワガノワ・バレエの伝統をいまに伝え、「夢コンサート」にも毎回メッセージをいただきます。ラリッサ・ドブラジャン先生はいまでもドイツの母のようです。リュドミラ・コワリョーワ先生とは十三歳のときワガノワ・バレエ学校で出会い、のちにレニングラード国立バレエで『白鳥の湖』を踊るときにリハーサルを指導していただき、プロ活動の転機となりました。タチアナ・テレホワ先生はジャクソン国際バレエコンクール以来、踊りの強さの必要性を教えてくれました。マリーナ・レオノバ先生は十六歳でボリショイバレエ学校に入学したときの担任で、いまは校長先生となり、私の企画したワークショップにも協力していただいています。どれほど素晴らしい先生たちにご指導をいただいたか、考えるだけでも感謝の気持ちがあふれます。

チェロの巨匠ダヴィド・ゲリンガスさんとは音楽とダンスのコラボレーションに正面から取り組みました。一つひとつの音の粒を感じながら踊る喜びは忘れません。ベルリンフィルのバイオリニストで作曲家のホルム・ビークホルツさんとのコラボレーションは刺激に満ち溢れていました。私

のために作曲していただいたことにも感謝を捧げます。

父、針山憲夫、母、和子、そして二人の妹、祐美と真実は世界のどこにいても一緒です。激動の世界で踊り続けることができたのも、つねに家族の支えがあったからです。

論創社の編集者志賀信夫さんには、出版をお引き受けいただき、お礼の言葉もありません。志賀さんはご自身も舞踏や現代芸術の批評家として知られ、バレエへの造詣が深く、素晴らしい本に仕上げていただきました。

最後にこの原稿を文字としてまとめられた倉澤治雄さんには、根気強く私の話を聞いていただきました。この本の出版は倉澤さんの発案です。ジャーナリストとして科学や国際情勢を精力的に取材されていますが、クラシック音楽への造詣が深く、父同様、かつてはクラリネットを吹いておられました。

志賀さんと倉澤さんのご尽力は一生忘れません。

この本は私が出会ったすべての人々、バレエを志す人々、そしてバレエや芸術を愛するすべての人々に捧げたいと思います。

針山愛美

第一章　ボリショイへの旅立ち

ボリショイ劇場、いまと昔

二〇一六年夏、二十数年ぶりにモスクワのボリショイバレエ学校の寮に日本の子どもたちと一緒に宿泊したとき、何とも言えない感情が沸き起こり、胸が締め付けられる思いでした。旧ソ連邦の崩壊やそれに続くモスクワでの政変のなか、ボリショイバレエ学校でひたすらバレエの練習に打ち込んだ日々が思い出されます。

モスクワの冬の寒さは格別です。マイナス二十度以下という極寒のなか、寮ではコートを着ていても寒さで眠れませんでした。食べ物もろくにありません。洗濯機もなく、日々、冷たい水で洗濯した記憶が蘇ってきました。

毎日、家族に手紙を書きました。家族からの手紙がどれほど心を温めてくれたことでしょう。必死に生きてきた記憶が、昨日のことのように蘇ってきます。

いまボリショイ劇場に立ってみると、時代はずいぶん変わりました。ボリショイ劇場の中に入るのは、卒業公演以来二十一年ぶりのことです。

バレエ学校の寮には何人かの日本人の姿も見られます。もう食べるものに困ることはなくなりました。

またインターネットで世界のだれとでも連絡を取れるようになりました。私がいたときの話をしても、おそらくだれにも信じてもらえないでしょう。

物質的には貧しい生活でしたが、バレエの練習に打ち込むことができた、幸せな日々でした。

当時私の担任だったマリーナ・レオノバ先生は、ボリショイバレエ学校の校長先生になっていました。いまや近づきがたい雰囲気ですが、それでもお会いすると、昔のままの先生と生徒の雰囲気で話をしてくださいます。

クラスを訪ねると、時流に惑わされず、伝統を受け継いだレッスンが行われているのを見て嬉しくなりました。また当時のクラスメートも、すっかり立派な先生として活躍しています。昔の思い出を語り始めると、時間が経つのを忘れてしまいます。

私がプロになってからアメリカでお世話になった方々のうち、何人かはロシアに戻っていました。芸術は人間をつなぎ、世界をつなぎ、人々の心を奮い立たせてくれます。

それにしてもモスクワはなんと豊かになったことでしょうか。便利でリッチなモスクワの姿は、残念ながら私の心を少し失望させました。貧しくても昔のモスクワは素晴らしかったと感じています。

懐かしさと失望が入り混じった複雑な思いを抱きながらモスクワを後にしました。

私はいま、バレエダンサーとして世界各地で公演を行うかたわら、世界を目指す日本の若者を率

トゥシューズの工房

いて、世界最高峰の教師たちによるレッスンを受けるワークショップを行っています。ワークショップではなかなか入ることのできない劇場の内部を見てもらい、トゥシューズの工房を訪ねるなど、私だからできるプログラムを手作りで組んでいます。

またバレエコンクールの審査員をつとめたり、後進の指導にあたっています。

私が語り継いでおきたいことは、バレエの素晴らしさ、芸術の素晴らしさ、そして人と出会うことの素晴らしさです。

この本を通じて、バレエのこと、芸術のこと、そして世界のことを少しでも知っていただければ幸いです。

ベルリンの不思議な魅力

ドイツという国はとても保守的な国です。でも首都ベルリンは大変オープンな都市です。私は二〇〇四年にウラジーミル・マラーホフが率いるベルリン国立バレエ団に入団しました。二十七歳の

針山愛美【略歴】

1977 年　4 月 17 日生まれ（昭和 52 年）
1991 年　ワガノワ・バレエ学校短期留学
1992 年　ボリショイバレエ学校短期留学
1993 年　ボリショイバレエ学校入学
　　「モスクワ騒乱事件」発生
1994 年　ペルミバレエ学校短期留学
1996 年　ボリショイバレエ学校首席卒業
　　ダンチェンコ・モスクワ音楽劇場バレエ団入団、プロデビュー
　　パリ国際バレエコンクール金賞なしの銀賞
1997 年　モナコ王立バレエ学校短期留学
　　エッセンアルトシアター入団
　　モスクワ国際バレエコンクール「芸術的魅力賞」受賞
1998 年　ジャクソン国際バレエコンクール
　　バレエインターナショナル入団
1999 年　クリーブランド・サンノゼバレエ団入団
　　大阪・吹田市国際交流大使
2000 年　マイアミ国際ダンスフェスティバル出演
　　ニューヨーク国際コンクール、日本人初銅賞
2001 年　第 1 回「夢コンサート」（大阪）
　　ボストン・バレエ入団
　　「9.11 アメリカ同時多発テロ」発生
2002 年　レニングラード国立バレエ『白鳥の湖』『ジゼル』主演
　　TBS 系番組『情熱大陸』出演
　　ジャクソン国際バレエコンクール「ロバート・ジェフリー賞」受賞
　　エスティ ローダー「ディファイニング ビューティ アワード」受賞
　　オールスターバレエガラ公演等
2003 年　第 2 回「夢コンサート」
　　サンクトペテルブルクアカデミーバレエ団ゲスト主演『白鳥の湖』
　　アメリカのバレエ団ゲスト出演（シカゴ、アラバマなど）
2004 年　ウランウデ劇場バレエ団『白鳥の湖』『ジゼル』で大臣表彰
　　ベルリン国立バレエ団入団『リング』『ラ・バヤデール』『シンデレラ』
　　『オネーギン』『チャイコフスキー』『ラ・ペリ』など
2005 年　ベルリン国立バレエ団日本公演
2006 年　第 3 回「夢コンサート」
2009 年　モダンアートフェスティバル（以降、毎年さまざまなコラボレーション）
　　第 4 回「夢コンサート」
　　イレク・ムハメドフとオネーギン抜粋を共演
2010 年　ペルミ、ウファなどロシア各地でガラ公演に参加
2011 年　**「3.11 東日本大震災」**

コペンハーゲン「東日本震災チャリティ公演」
タイ・バンコクツアー
ベルリンフィルの音楽家と共演（以後、毎年）
東日本大震災復興支援公演プロデュース公演
2012 年　全国のバレエコンクール審査員（以降毎年各地 10 カ所以上）
ユネスコ記念「ペルミ国際バレエコンクール」審査員（2014 年）
トラベリング・ソウル（ベルリン）プロデュース公演
『バッハプラス』プロデュース公演、ゲリンガスと共演
ロサンゼルスで『ホセ・カレーニョ』と『白鳥の湖』の抜粋、同共演
ロストロポーヴィッチ没後記念式典でリトアニア首相の前で共演
2013 年　リガ国際バレエコンクール審査員（以降毎年）
ベルリンフィルと共演（2014 年も）
フランスでドネツクバレエ団『白鳥の湖』
ドネツク国際バレエフェスティバル
パッサウ国際音楽フェスティバル
「バーデンバーデン音楽祭」でベルリンフィルと共演
2014 年　ベルリンインターナショナルワークショップ主催（以降毎年）
中国・台湾ツアー
ベルリン国立バレエ団退団
ベルリンフィル本拠地でコラボレーション『花の夢』
世界、日本各地で講演会（シンポジウムや大学など、以降毎年）
アメリカ各地サマーインテンシブ講師（以降毎年）
ラトビア・ストックホルム国際ダンスフェスティバル
マラーホフ指導 DVD プロデュース
2015 年　スロバキア国立コシシェ州立歌劇場でマラーホフ版『ラ・バヤデール』振付指導
キエフ国立バレエ学校でマラーホフ版『仮面舞踏会』振付指導
アメリカ、アラバマで『白鳥の湖』主演
「グランプリ・ウラジーミル・マラーホフ」（キューバ）
2016 年　「マラーホフとフレンズ」ガラ公演・ベルリン
「グランプリ・ウラジーミル・マラーホフ」（キューバ）ガラ公演・テレビ出演
「ベルリンデュオ」プロデュース公演、ホルムと共演（大阪、静岡、東京）
キエフ国立バレエ学校『パキータ』振付指導
カザフスタン国立バレエ学校にてマスタークラス
「日米リーダーシッププログラム」国際シンポジウム日本メンバー
ニューヨークにて『ジャック・ダンボワーズ』振付作品ガラ
ボリショイバレエ学校現地ワークショップ教育プロジェクト（以降毎年）
リガで針山愛美撮影の写真展を開催
2017 年　第 5 回「夢コンサート」
クロアチア国立バレエでマラーホフ版『白鳥の湖』振付アシスタント

キエフ国立バレエ学校でマラーホフ版『ラ・ペリ』振付指導
台湾グランプリ審査員
東京混声合唱団と共演『月の夜』世界初演
神戸女学院大学客員教授
針山愛美豊中プロジェクト VoL.2
2018 年　スロバキア国立コシシェ州立歌劇場でマラーホフ版『白鳥の湖』振付指導

針山愛美（はりやま・えみ）

1977年、兵庫県生まれ。ボリショイバレエ学校を首席で卒業、ロシア、アメリカ、ベルリン国立バレエ団などで活躍。世界各地でゲストとして招かれ『白鳥の湖』などに主演。モスクワ国際コンクール特別賞、ニューヨーク国際コンクール銅メダル（日本人初）、パリ国際バレエコンクール銀メダリスト（金なし）など。吹田市国際交流大使。ダンスと音楽のプロデュース公演を行い、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と共演。チェリストの巨匠ダヴィド・ゲリンガスとデュオでプロデュース共演、リトアニア首相出席の公演で踊る。ウラジーミル・マラーホフと世界各地で演出振付に携わっている。世界、日本各地でバレエコンクールの審査員、国際ワークショップを主催、世界各地に講師として招聘。『情熱大陸』などで放送される。また、若いバレエダンサーを育成し海外との架け橋になる活動を行う。

倉澤治雄（くらさわ・はるお）

1952年千葉県生まれ、開成高校卒、1977年東京大学教養学部基礎科学科卒、79年フランス国立ボルドー大学大学院修了・第三課程博士（物理化学専攻）、80年日本テレビ入社。原発問題、宇宙開発、環境、地下鉄サリン事件、司法、警察、国際問題など担当。経済部長、政治部長、解説主幹を歴任。著書『福島原発事故に至る原子力開発史』（中央大学出版部）、『原発ゴミはどこへ行く』（リベルタ出版）、『原発爆発』（高文研）、『テレビジャーナリズムの作法』（花伝社）、『徹底討論　犯罪報道と人権』（現代書館）、『原子力船「むつ」虚構の航跡』（現代書館）ほか。

世界を踊るトゥシューズ―私とバレエ

2018年6月30日　初版第1刷印刷
2018年7月10日　初版第1刷発行

著　者　針山愛美
発行人　森下紀夫
発行所　論 創 社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-23　北井ビル2F
TEL：03-3264-5254　FAX：03-3264-5232　振替口座　00160-1-155266
装幀／奥定泰之
印刷・製本／中央精版印刷
組版／フレックスアート
ISBN978-4-8460-1734-7
© Emi Hariyama 2018, printed in Japan
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。